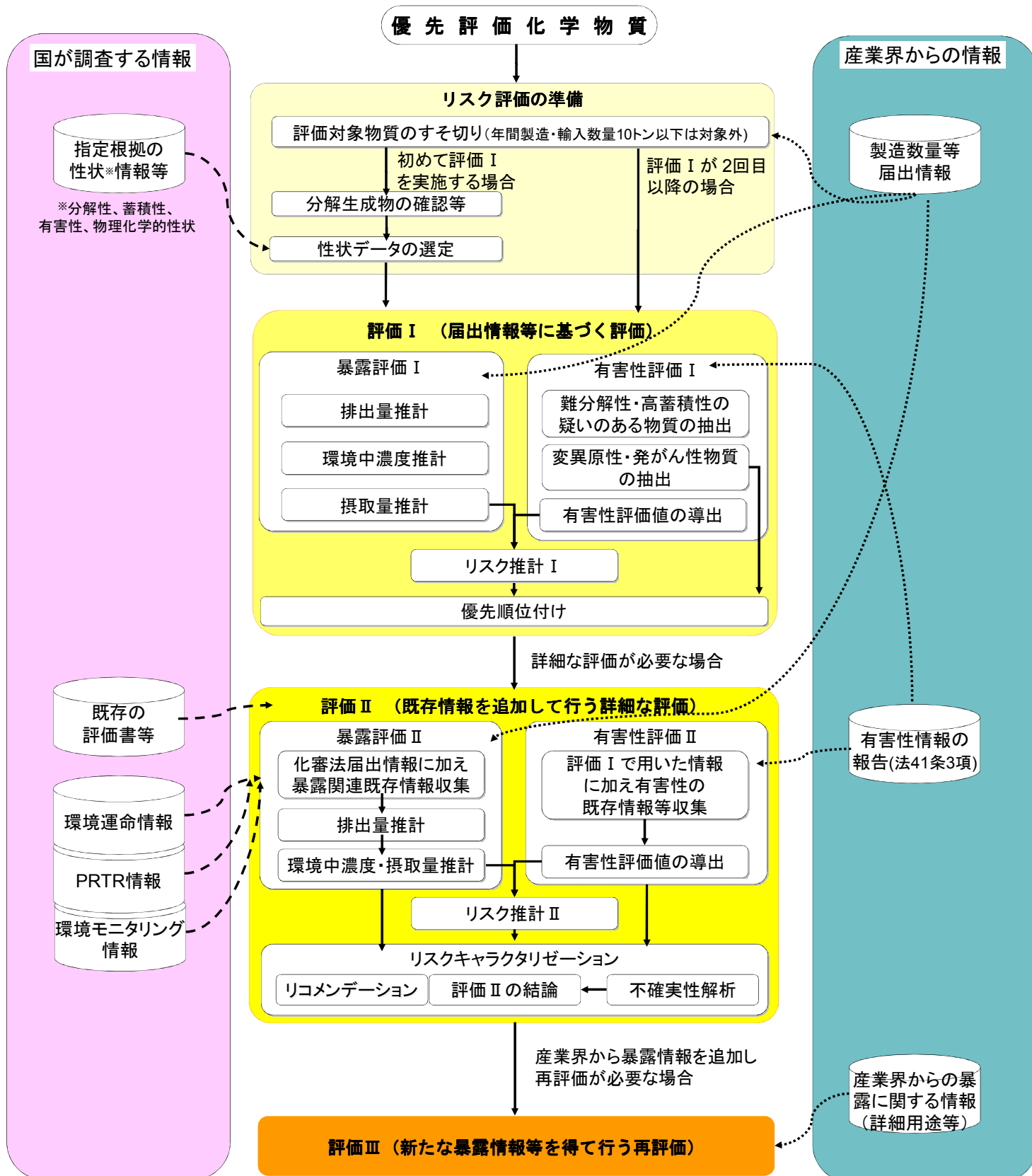


NITEが提案しているリスク評価(一次)手法の概要です。

リスク評価(一次)のスキーム全体像

NITEが提案しているリスク評価(一次)のスキーム全体像を以下に示す。(人健康評価で例示)



NITEが提案しているリスク評価(一次)手法の特徴です。

評価手法の特徴

仮想的排出源ごとに、製造数量又は出荷数量に「**排出係数**」を乗じ、排出量(大気、水域)を推計

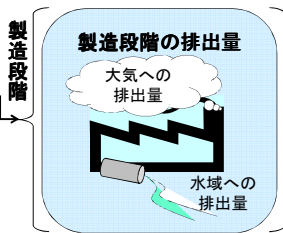
製造数量等届出情報に基づく暴露評価・リスク評価手法

製造数量等の届出制度の情報
(事業者ごと)

仮想的排出源の数 = 製造場所の数 + 出荷先の数(都道府県別・用途別) × 2 (ライフステージの数)

各都道府県でライフステージ・用途を代表する「**仮想的排出源**」を設定

届出書	
届出者名	
物質名	
製造	
製造事業所名・所在地	
a 製造事業所	〇県〇市 × ×
都道府県	量
A 県	● t
出荷	
都道府県	用途コード
A 県	XX-X
A 県	XX-X
B 県	XX-X
C 県	XX-X



【**排出シナリオ**】

- 届出の製造事業所毎に排出
- 排出先は大気と水域を設定

【**排出量推計**】

- 製造段階の排出量
= [物理化学的性状に応じた製造段階の排出係数] × [製造数量]

【**排出シナリオ**】

- 出荷先のライフステージは調合段階と工業的使用段階を想定
- 用途毎・ライフステージ毎に都道府県内で一つの**仮想的排出源**を想定
- 出荷先の都道府県内ですべて調合・使用されると仮定
- 排出先は大気と水域を設定

【**排出量推計**】

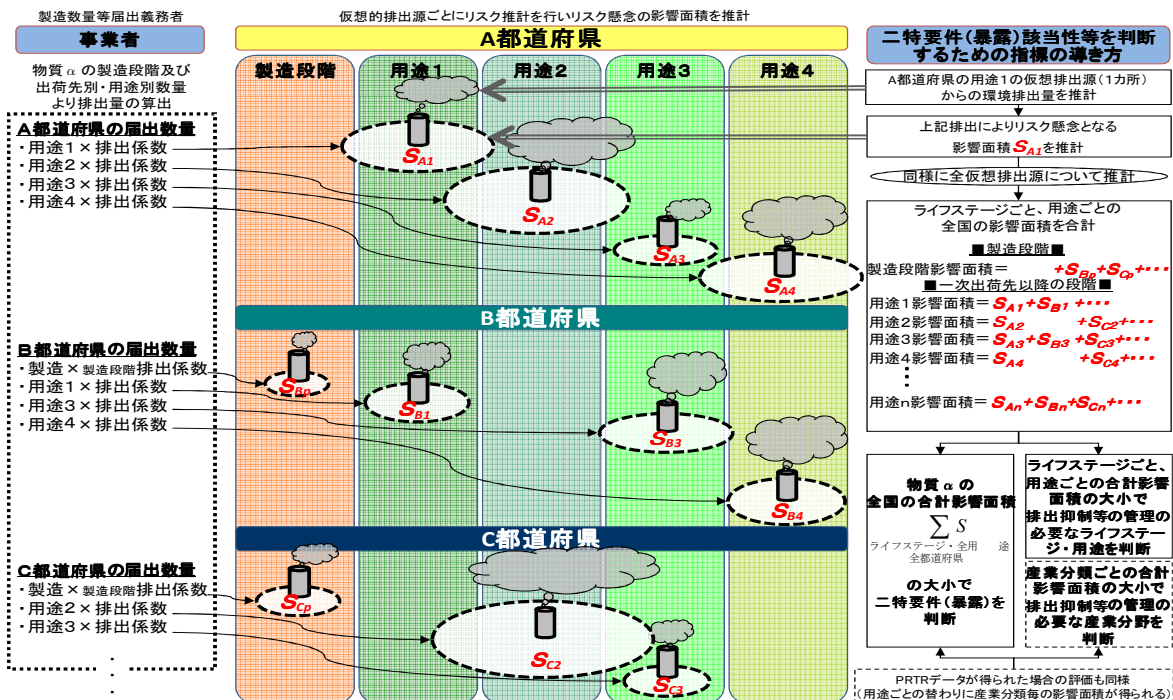
- 出荷先の排出量
= [用途・ライフステージ・物理化学的性状に応じた排出係数] × [出荷数量]

優先評価化学物質の
製造・輸入事業者からの
製造数量等届出情報を集計

リスク評価結果(人健康)をリスク懸念の影響面積・箇所数*で表す

*生態の場合はリスク懸念の箇所数で表す

- ✓ 排出源ごとに排出量を推計し、暴露評価・リスク推計(暴露量と有害性評価値の比較)を行う。
- ✓ それにより、排出源ごとに「**リスク懸念**」の有無と影響面積が推計される。
- ✓ リスク懸念の影響面積と箇所数は、全国合計のほか、ライフステージ別・都道府県別・用途別に集計することができる。



※本調査の成果は、経済産業省委託平成19、20年度環境対応技術開発等(化審法における監視化学物質のリスク評価スキームに関する調査)及び平成21年度環境対応技術開発等(改正化審法における化学物質のリスク評価スキームに関する調査)の一環として得られたものです。